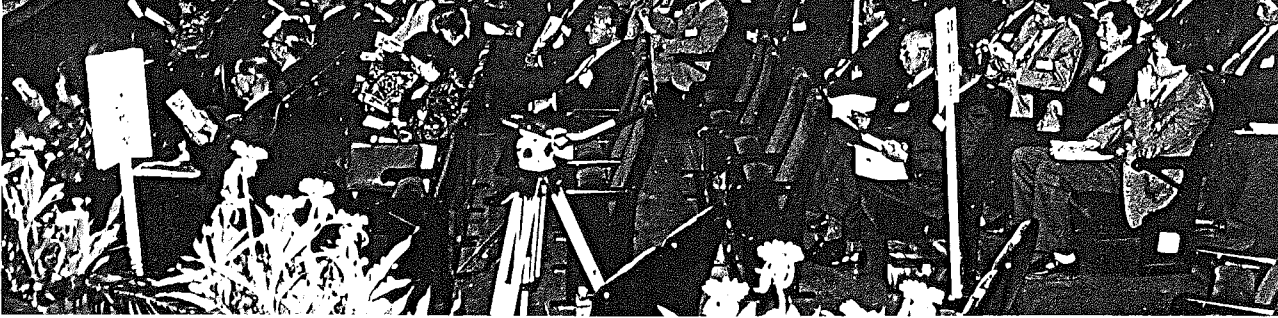


# 【大会第1日目】 パネルディスカッション

# ロータリーによる国際理解と21世紀への提言 ～国際間の理解と親善と平和を目指して～

## ロータリーによる国際理解と 21世紀への提言

～国際間の理解と親善と平和を目指して～



司会進行：黒田ガバナー

「ロータリーによる国際理解と21世紀への提言」という大きな演題を掲げましたけれども、それには理由がありまして、残念ながらこの地区のロータリー財団への寄付額が全国でもかなり低いレベルにあります。それはロータリー財団を通しての国際奉仕活動というものなかなか理解されていないのではないか？と思ひまして、国際奉仕活動へのご理解と参加を呼びかける為にこのようなテーマを掲げた訳であります。

パネラーの方々はロータリー財団やその他にも様々な国際奉仕活動を実践なさっている方々ですので、色々な角度からの体験談を聴いていただくことによって国際奉仕活動への理解を深めていただき、ロータリー財団へご協力と、ご理解をいただければ幸いです。



### 【プロフィール】

- 生年月日/1943年八戸市生まれ
- 奉仕活動指導歴/インターアクトクラブ顧問を経て現在ジャンボ国際交流部顧問
- 略歴  
1943年/東京家政大学卒業  
同年/千葉学園勤務  
1971年/聖ウルスラ学院勤務。現在に至る

### インターアクトクラブによる国際奉仕から

八戸聖ウルスラ学院高等学校教諭・元IAC顧問

## 掛端 不似子

### ●現在の私の活動の出発点

14年前、インターアクトの翼で初めて韓国を訪問した際の体験がきっかけとなり、ODAのプロジェクトや青年海外協力隊の活動を視察する機会を得て戦後補償からスタートしたODAと、東南アジアと日本の関わり合いについて目を向けました。

### ●ジャンボ国際交流部顧問として

今まで、インドネシア、マレーシア、タイ、韓国、フィリピン、ベトナムについて研究。今年はカンボジアです。未熟さは否めないが、問題に真っ正面に向き合っている人々(留学生の方々)との出会いで成長して行く生徒。その生徒たちの前進の手伝いをするのが私の仕事だと思っております。

### ●体験の重み

フィリピンのミンダナオ島の2週間のホームステイと無医村での医療ボランティア活動は、生徒たちに大きな感動を与えました。

### ●他を認め、共に生きて行こう

世界がボーダーレス社会になり相互に影響し合い、支えあって行かなければならない今日、他を認め共に生きて行こうという視点は大切です。そして生徒たちは、体験学習を若人の瑞々しい感性で受けとめ、その第一歩を踏み出すことができるのです。

### ネパール支援活動を体験して

地区ネパール支援委員会技術顧問・株式会社 パセリー菜技術顧問

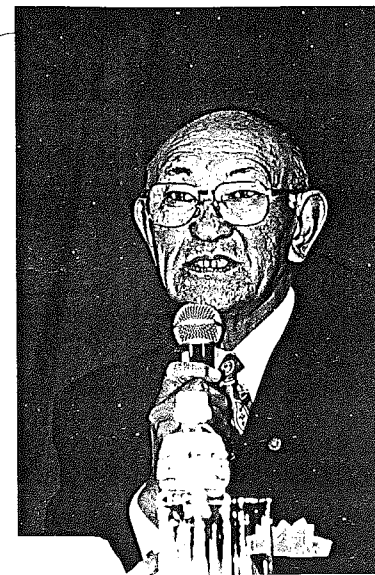
## 盛田 昭治

### ●農業部門の活動についての反省点問題点

- ①栽培作物と密接な関係にあるネパールの気象環境を正しく把握する必要があると考え、最低・最高気温の表をつくって比較。
- ②土を肥やすための土壌分析(土壌の化学性・物理性等)
- ③現地では肥料は高価なので購入できない農家が多いので、有機肥料を使うことで安全な食糧生産が出来るのではないかと考えた。
- ④タマン農場で技術的に一人前に育ったので、この技術をネパール全土に拡大すべくトレーニングセンターをつくりリーダーとなる技術者を養成すればよいと考えた。

### ●反省点

しかし、上記の案はことごとく問題に突き当たり、軌道修正を余儀なくされた。このことは、農業部門に限らず衣食住、保健医療、教育支援等の全てのプロジェクトに言えることであつたのです。すなわち「民族間の文化や生活習慣、物の考え方の相互理解が必要である。」その為には、相手を尊重し、押しつけることなく物事を進めることがいかに大切かを痛感した。また、ネパールに7年間に10回近く足を運んだが、行けば行くほどネパールに関しては解らないことが多くなるということを実感できたことが大きな向上であった様に思う。結果を出すには長い年月が必要だ。

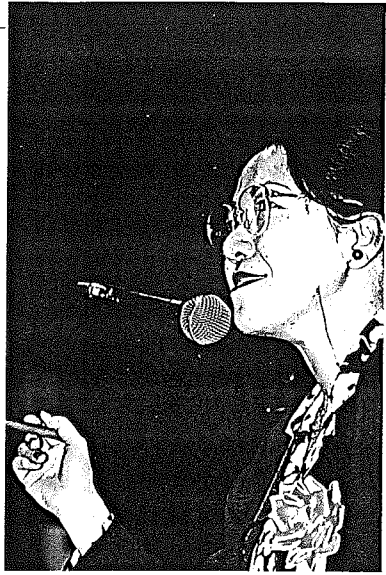


### 【プロフィール】

- 生年月日/1928年4月2日
- ネパール関係奉仕活動歴  
平成4年からネパール支援委員会技術顧問として訪ネ8回
- 略歴  
県職員(農業関係)勤務40年  
会社員(株)パセリー菜勤務13年

# 【大会第1日目】 パネルディスカッション

# ロータリーによる国際理解と21世紀への提言 ～国際間の理解と親善と平和を目指して～



### 【プロフィール】

- 生年月日/1948年2月1日青森県板柳町生まれ
- 経歴  
1973年/東邦大学医学部卒業。医師国家試験合格。  
1979年/弘前大学医学部大学院卒業。医学博士号取得。  
1980年/青森通信病院 内科部長。  
1986～87年度の国際ロータリークラブ奨学金取得  
1986～93年/スイスチューリッヒ、C.G.ユング研究所に留学、ユング心理学分析家資格を取得。  
1993年/弘前市に開業（内科医・分析家）  
1997年/（社）日本心身医学会代議員

## ロータリー国際親善奨学生学友として

弘前ユング心理学相談室代表・ユング派分析家・医学博士

## 石岡 弘子

●人類としての共感と文化的差異の認識(ユング心理学からみた国際交流)  
私はロータリー財団奨学生として、ユング心理学の世界的なメッカである、チューリッヒのC.G.ユング研究所で、人間の無意識についての深層心理学を勉強してきた。カール・グスタフ・ユング(1875～1961)は、精神医学から出発して、若い頃はフロイトの弟子として個人的無意識にかかわる精神分析に寄与したが、師と別れ、全人類に共通する集合無意識を発見してユング心理学を確立した。ユング心理学は、精神医学や心理療法の分野を越えて、20世紀の偉大な思想と評価されている。

ユングの考え方によれば、人類は心の根元的な部分で共感しあうことができる。しかし、ヨーロッパ、アジア、日本等の文化差に加えて個人差があることも事実である。

ユング研究所での卒業論文は、ヨーロッパと日本の芸術様式を比較して、各々の精神構造の違いを浮き彫りにしたものだ。ヨーロッパ文化は自我を確立する方向に向かい、日本は自我よりも深い層で、他者や自然との一体感を回復する方向に向かっていた。世界史は、他地域へ出かけても自分の価値観を相手に押しつけるだけでは、戦争しか生まないことを教えている。深い層での共感の上に立って、お互いに尊重し合い初めて真の国際交流と平和共存が可能である。



### 【プロフィール】

- 生年月日/1946年6月7日
- 現職/浦項交通株式会社 代表
- ロータリー歴  
1983年11月/南浦項RC創立会員  
南浦項RC会長  
地区委員長、分区分代理を歴任  
R.I第3630地区1999-2000ガバナーノミニ

## 日本や台湾との姉妹クラブ交流から

R.I第3630地区ガバナーノミニ・韓国南浦項ロータリークラブ元会長

## 李 東 均 (Dong-kyun Lee)

ロータリーの基本綱領で、「奉仕の理想」を行う為に、私が属しているR.I第3630地区韓国南浦項ロータリークラブでは、86年にR.I第2830地区八戸南ロータリークラブと姉妹クラブの調印式を行い、それ以来、13年間3年毎に再調印を繰り返しながら、今日に至りました。また、87年にはR.I第3490地区台湾中樞中区ロータリークラブとも姉妹クラブとなり、お互いの友情を深めながら現在まで続いてまいりました。

国際間交流を始めた時は、それぞれの文化や習慣、そして言葉の違いによって、誤解を招いたこともありました。しかし、ロータリーの綱領を守り、ロータリアンとしての、共同の目的を果たすために、日々努力を重ねた結果、有形無形の多くの成果を得ることが出来たのです。

そして、90年8月には黒田正宏ガバナーを団長とする、R.I第2540地区インターアクトクラブの会員と韓国のインターアクトクラブ会員が交流会を持つようになりました。

ロータリー精神は宗教や信仰ではありません。しかし、追求する思想、理念はどんなものとも比べられない尊いものです。この精神を持続発展させ、我々の後世まで伝えるためには、私たち両国間のロータリアンが一層努力し、各国の親善を図ると共に国際平和へ役立つような基礎になるよう努力していきましょう。



### 【プロフィール】

- 生年月日/1938年2月6日
- 現職/佐藤外科医院 院長
- ロータリー略歴  
1979年/弘前RC入会  
以後、R.I第2540地区の青少年交換委員長・国際奉仕委員長等、地区役員を歴任。この間、オーストラリア・デンマーク・ドイツ・アルゼンチン等からの留学生6人のホームステイを引き受け、フランスからの留学生のカウンセラーを経験。

## 当地区の国際奉仕活動をふりかえって

元地区青少年交換委員長・元国際奉仕委員長・弘前ロータリークラブ元会長

## 佐 藤 眞

### ●青少年交換プログラムについて

私はかつて5年間青少年交換委員会に属し、多くの青少年に接してまいりました。一時期は同時に3ヶ国3人の男女留学生と生活を共にしました。そして、ホストファミリーをを引き受けて本当に良かったと感謝いたしております。現在、彼等は母国にて立派な社会人として社会に貢献しております。交換留学生受け入れに関していつも問題になるのが、ホストクラブ・ホストファミリーの問題でしょう。このプログラムは、受け入れ校の生徒および周辺に住む同年代の青少年に絶大な刺激を与えるもので、心血を注いで奉仕する価値のあるプログラムです。

### ●世界社会奉仕(W.C.S.)について

アルゼンチンの「植物ウイルス研究所」の研究設備充実の支援と医療問題に関するプロジェクト支援の2つの事例があります。この支援事業の最大の特徴は、支援は全てロータリアン個人あるいは各RCの自発的な行為である事です。ロータリーの奉仕は個人の奉仕“I serve.”が原則であるという理念が見事証明されました。

わが国で「国際化」なるお題目が唱え出されて久しくなりますが、その意味を今一度考え、世界平和に寄与する日本人になるべく“FOLLOW YOUR ROTARY DREAM”を心に留め奉仕の道を進みたいものです。

## コーディネーター総括

コーディネーター・R.I元理事

## 菅 野 多利雄



### 【プロフィール】

- 生年月日/1919年5月24日生
- 現職  
医療法人 菅野愛生会 緑ヶ丘病院 院長  
宮城県ユネスコ協会 副会長
- ロータリー活動歴  
1964年 4月/塩釜ロータリークラブ入会  
1976～77年/国際ロータリー第352地区 ガバナー  
1983～85年/国際ロータリー理事  
1998年 6月/ロータリー国際研究会モデレーター  
7月/ロータリーの夢 実行グループ

R.I会長の言う「ロータリーの夢を追い続けよう」のロータリーの夢とはいったい何でしょうか？いろいろな言い方がありますが、ロータリーの夢は一つしかないのです。それは何かと言いますと、ここに黒田ガバナーが掲げられた、「国際間の理解親善を通じての平和の確立」これが我々ロータリアンの最終の目的であって、最も大事な目的なのです。

そして、国際ロータリーの特性というのは「国際性」なのです。これを忘れてはロータリーに属するの会員とは言えないのです。ところが、日本の各地区を回って見ますと肝心の国際性が忘れられ、まずは足下を見ろというような地区がまだ多いのです。

ところが、パネリストの方々から「国際性」あるいは「ロータリーの目的」に向かって活動しているお話がありましたが、このような活動が国際ロータリーの目的を達成するためのステップになるのです。そういうステップを大切に三角形の頂点である「奉仕の理想」に向かって行くのが我々の夢であり、R.I会長の言う「ロータリーの夢を追求」という事なのです。この頂点の夢を忘れてしまえば、あまり意味のない活動になってしまいます。これからは国際交流、特に韓国との交流を同じ目線でもって交流を続けていってほしいと存じます。